

相談支援だより

群馬県立太田特別支援学校
第3号 令和4年2月

「見える化」とは…？百聞は一見にしかず

相談支援だより1号の中で「見える化でわかりやすく」というポイントを紹介いたしました。視覚的支援という言葉で言われると、難しそう？専門的？と思うかもしれませんが、一手間で「叱らずにすむ工夫」はたくさんあります。身近でわかりやすい例の一つは、病院の床。本校の保健室にも、身体測定の時に使うためのラインが引いてあります。



言わずに、すむ

- 「はい一列に並んで～！こっちこっち、そっちじゃない！…どっちなの？」
- 「間隔空けて止まって待つよ、近い近い、よく考えて！ほら、前が進んだ！ちゃんと、つめなさい！」…どうすればいいの？

視覚的支援と、合理的配慮の話 ～チョーク工場の気づき～

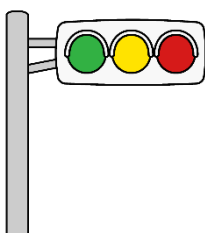
「日本理化学工業」という会社が、50年以上も前に知的障害のある生徒さんを採用し、「ほめられ、役立ち、必要とされる場」を作り出したことは有名な話です。漢字も、数字も読めないけれど、力を発揮して働ける。そこには「工程を人に合わせる」という考え方がありました。書けば一言ですが、そこに気づくってすごいですね！

「この子たちは、少なくとも信号機のある道路を渡って会社に来ている。ということは…」

- ・ラインに流す材料を、容器の色であらわせばいい。
- ・青い容器の材料は、青いおもりで量って混ぜる、と教えておけば間違えない。

ちなみに「一目で分かる」環境は、他の人の邪魔にはなりませんでした。ここ大事。

<参考文献：日本でいちばん大切にしたい会社 坂本光司 あさ出版>



<お気軽にご相談ください>

群馬県立太田特別支援学校

専門アドバイザー 植木あゆみ

TEL:0276-32-3939 FAX:0276-32-4224

E-mail :a-ueki@edu-g.gsn.ed.jp